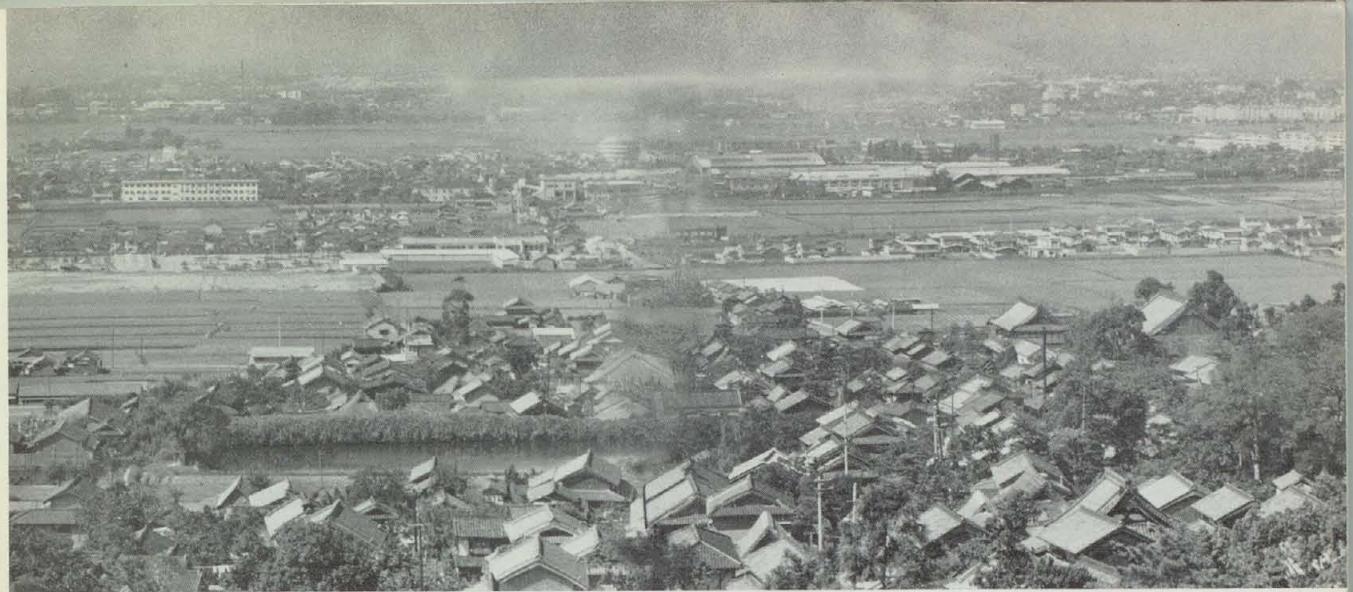




5

EE



高安山から市内を望む

のびゆく住宅街



←鉄骨住宅街

「八尾」の地名は、むかし、こゝに矢を作る矢作部がいて、矢は負うものということから、「矢負い」という語ができ、八尾という文字が使はれてできたものです。

この地は、上古、交通の便がよく、河内の中心として栄え、称徳天皇の時代には「西の京」とよばれたこともあって、これが今日の精神文化の支えにもなっています。

近年、交通通信網の発展に伴って、大阪市を中心とする経済圏は近郊周辺市に拡大され、住宅団地の建設が盛んですが、当市は恵まれた風土と立地条件から、画一的な住宅団地ではなく、多角的な造成が行なわれ、とくに、山手付近は、高級住宅地として脚光をあびています。

山本の住宅街



重要文化財



市内には大寺が多く、中でも礎石だけを残す竜華寺は、河内五大寺の一つです。聖徳太子の遺跡も多く、現在市内には100以上の寺院があり、その大きなものは莊園または寺内村をつくり、寺名をその地名としたところも少なくありません。

重要文化財

(1) 木造十一面觀音立像 1軸 神宮寺所管

明治45年2月8日国宝として指定を受けましたが、文化財保護法制定によって昭和25年8月29日、改めて重要文化財に指定されました。

(2) 木造制札 1札 玉租神社所管

明治43年4月20日国宝として指定を受けましたが、觀音像と同じように法の制定によって重要文化財に指定されました。

府古文化記念物等保存顕証規則による指定物

- ① 木村重成の墓(史跡)
- ② 恩智弥生式石器時代遺跡(同)
- ③ 渋川神社の樟(天然記念物)
- ④ 玉租神社の樟(同)
- ⑤ 元善光寺の樟(同)
- ⑥ 鏡塚古墳(史跡)



木造制札



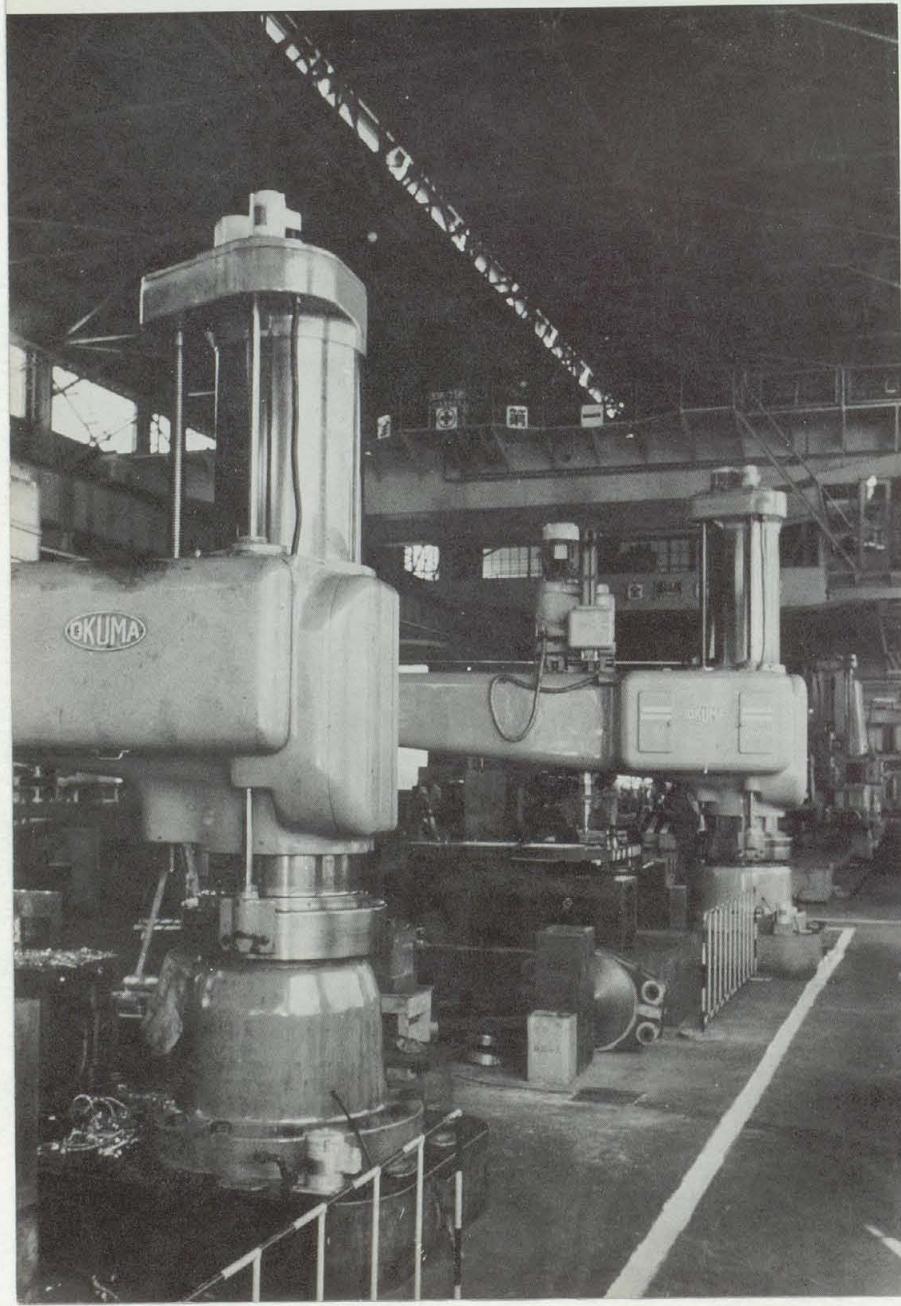
木造十一面觀音立像

常光寺山門→

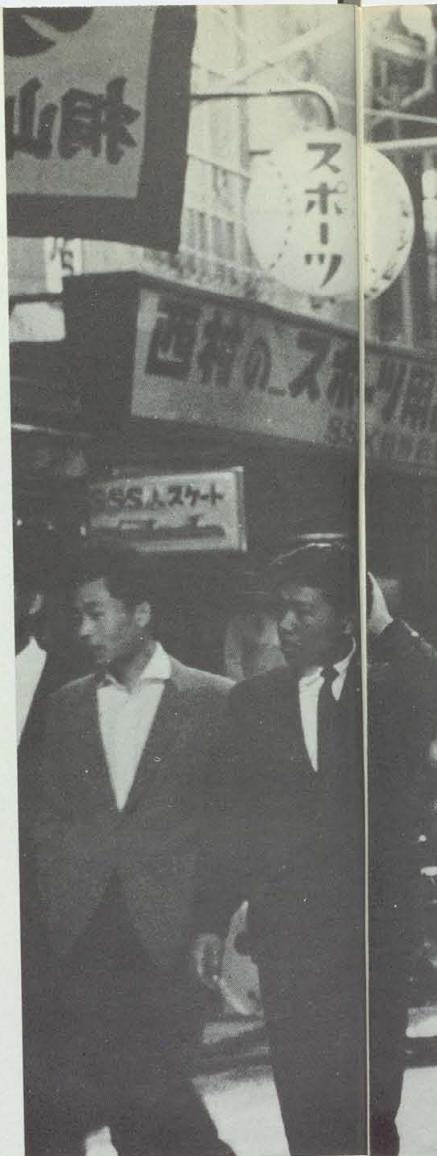




発展する商工業



重 工 業 の 工 場 内 部





沢の川商店街

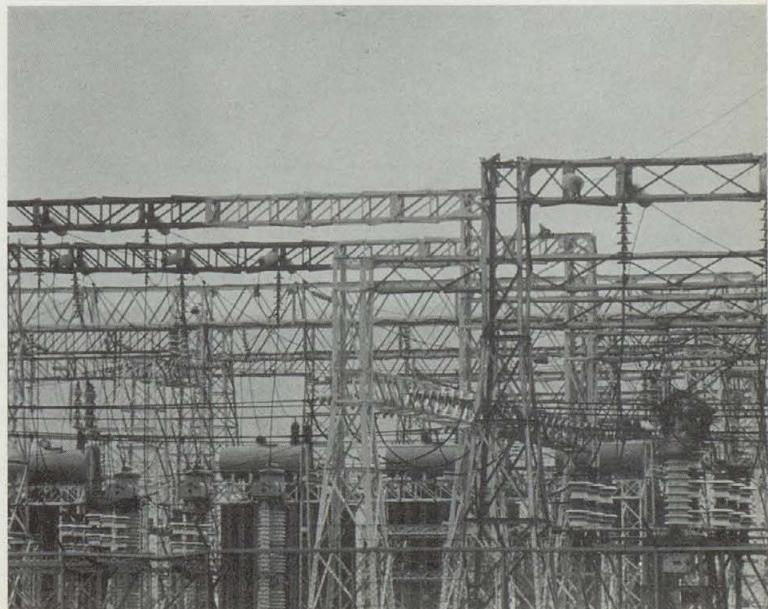
志賀本山電気

志紀変電所

市内にある製造・加工の事業所は846(37年度)で、10年前からみると2.5倍、従業員数では3倍の19,667人にもふえています。生産額では、さらに5.4倍ものび、年間492億円の製品を出しています。主な工業は金属、繊維、化学で、これらが全生産額の50%以上を占めています。

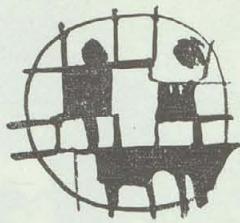
商業では、市内の商店数は2,027で、昭和27年当時とくらべると2倍、従業員数では5,089人で2.6倍にのびています。毎月の商品販売額はおよそ14億円で5.5倍。業種は圧倒的に食料品小売商が多く962店あります。

今後、工場・住宅の誘致、育成が進められ商工業は加速的に発展してゆきそうです。



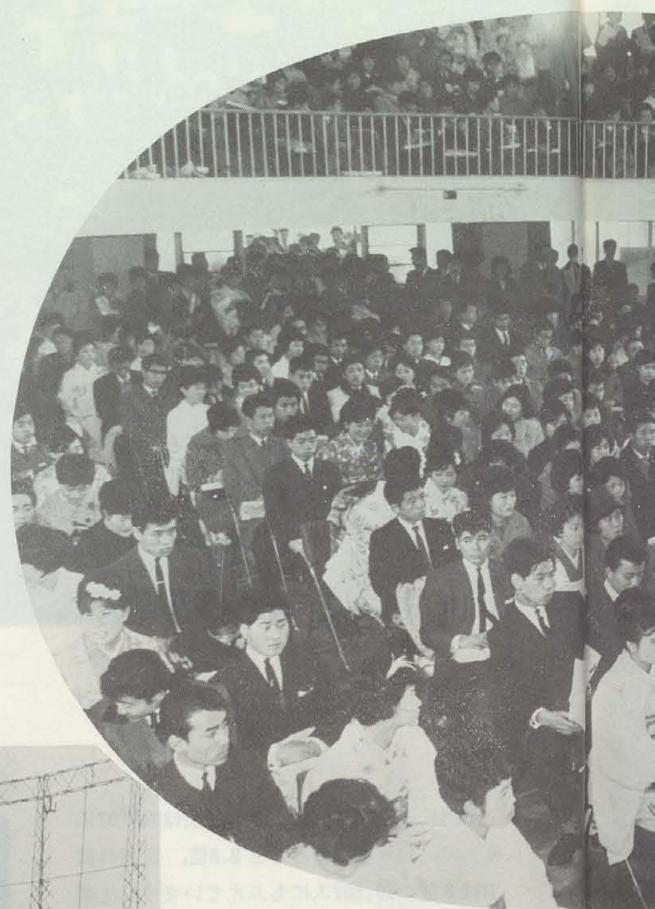


市立労働会館

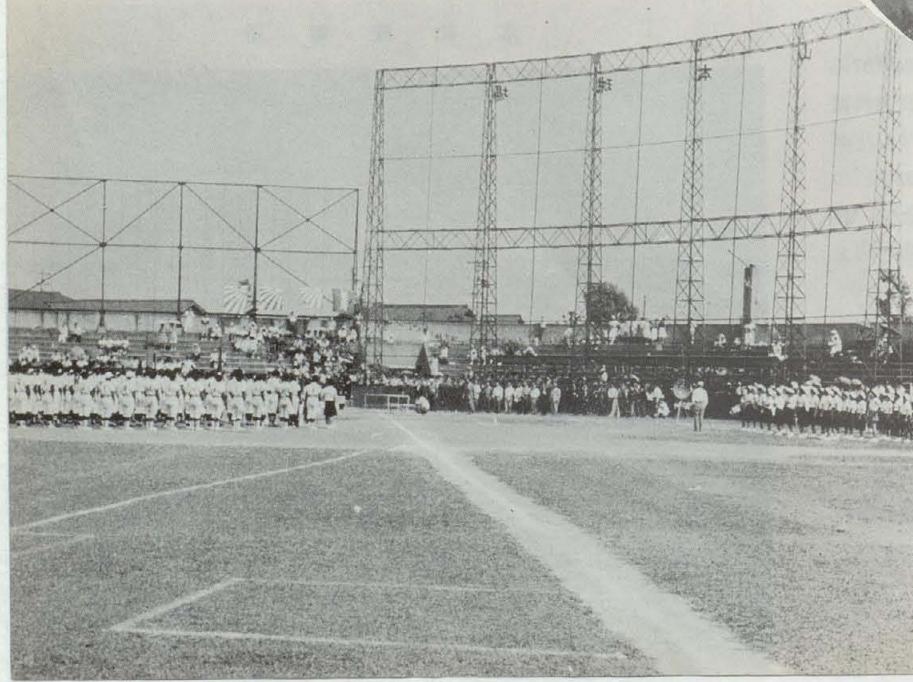


社会教育施設

市民ホールで若人の集い

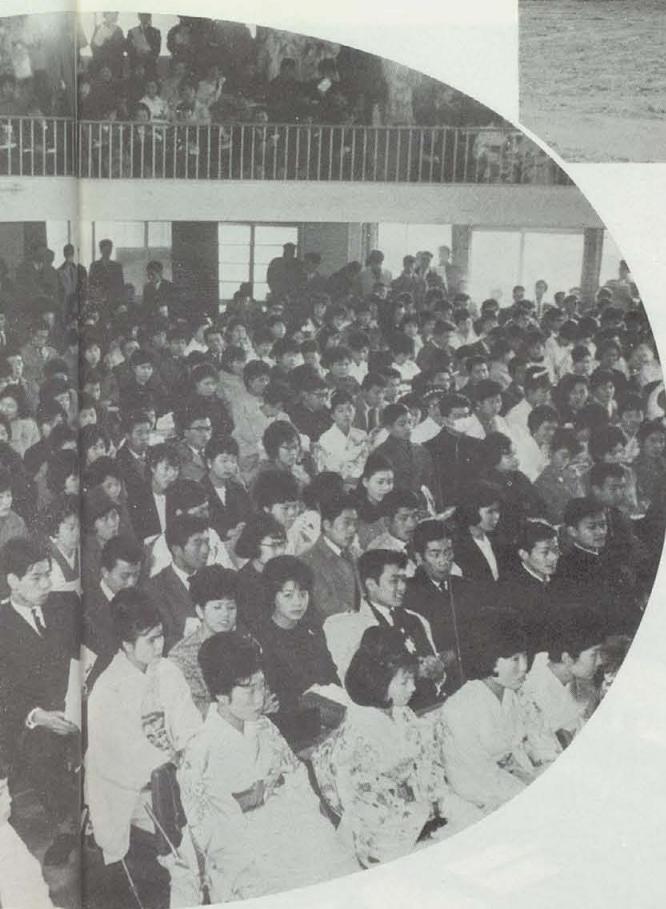


市立山本球場





青少年いこいの家



市内にある市民のための公共施設は、年々充実され、近年では、結婚式場もある勤労者のための労働会館をはじめ、地域福祉のための隣保館、大阪市との行政協定による青少年いこいの家、市民体育の中心となる山本球場、そして市民文化の育成と集会の場としての市民ホールなどがあり、毎日、これららの施設を利用する市民の方々でにぎわっています。



市立隣保館



医療・衛生施設

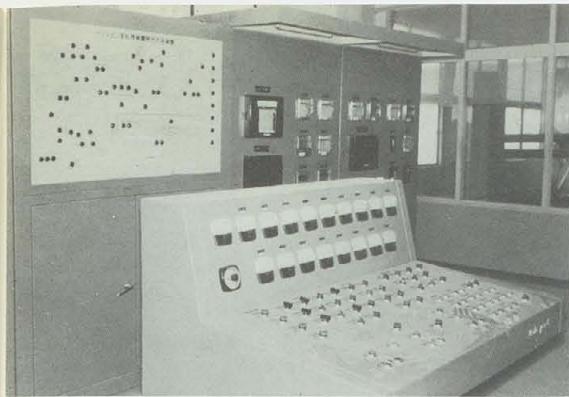
上・市立病院全景

下・手術室

市立病院

昭和36年8月に増改築工事を終えて医療設備も整い、現在は十科の診療科目があり、病床総数375床（一般263床 結核46床 伝染66床）基準看護、基準給食に加えて、基準寝具も備っています。また病院の横には円型の伝染病院があり、現在は隣接4市で組合が組織されています。増改築着工昭和35年、建設費1億3,600万円。





上・配 電 盤
下・衛 生 处 理 場

衛 生 处 理 場

昭和37年5月に上代地区に完成したし尿処理場は、その後、さらに改良が加えられ現在では完全運転をしています。この処理場は最新式の化学処理方式をとり、1日に約9万人分のし尿を処理することができます。毎日のように全国からの見学者がたえません。建設費約1億1,000万円。





祝寿式で表彰をうける老人たち

市立養護老人ホーム



老人と子供

人生は六十から一平均寿命がのびるに従って、老人たちの生活も見ちがえるように活動的になりました。

八尾市の老人クラブが誕生したのは昭和29年、それから10年の間に70余りのクラブが結成され、青年たちに負けず豊かなレクリエーション活動を続けています。『若い者にたよる老人』から『頼られる老人』へ脱皮してゆくクラブの老人たちの目は輝いています。





幼 稚 園

「さあ、体操をはじめましょう」
「イチ、ニ、サン」園児たちのはく息が、透明な朝の空気の中に広がってゆきます。どの顔も明るく、心から幼稚園の生活を楽しんでいるようです。

八尾市立の幼稚園は分園を入れると13、府下の衛星都市のなかで公立幼稚園の最も完備した市の一つ。ことしの入園難のなかで、完備した当市の幼稚園は大きな役割を果たしています。

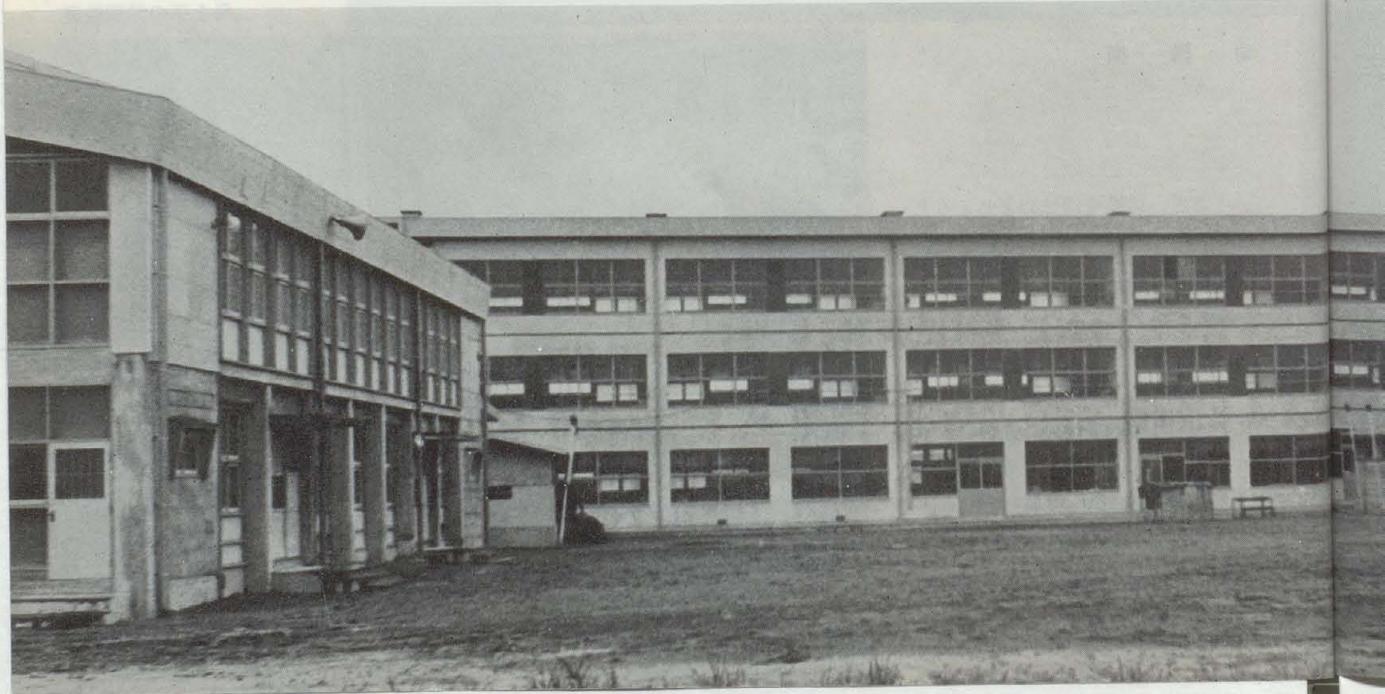


母と子の絵画教室



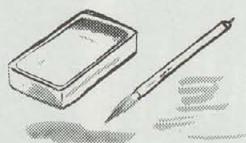


運動会風景





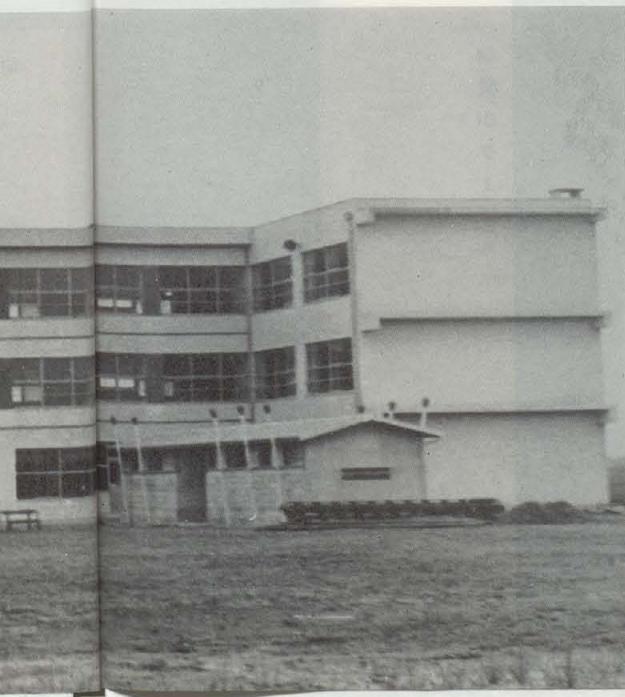
特 殊 学 級



学 校 教 育

市内にある学校園は、高等学校3、中学校9、小学校16、幼稚園13で生徒児童の総数はざっと3万人です。学校教育費は父兄の要望に応えて施設の充実を計るほか、第2室戸台風や旧西郡小学校の火災全焼という、思いがけない災害もあってますますふくれ上ってきました。しかし、全校に雨天体操場の建設、老朽校舎の改築、不足教室の増築が着々進められ、また理科教育、特殊学級の整備にも力がそがれています。

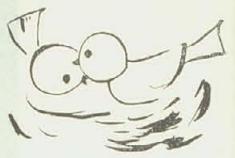
今年度は八尾市奨学基金制度が創設され、学資に恵まれない高校生のために奨学生がおくられ、父兄の方々によろこばれています。



桂 小 学 校



高安山登山観光道路



信貴山ケーブル



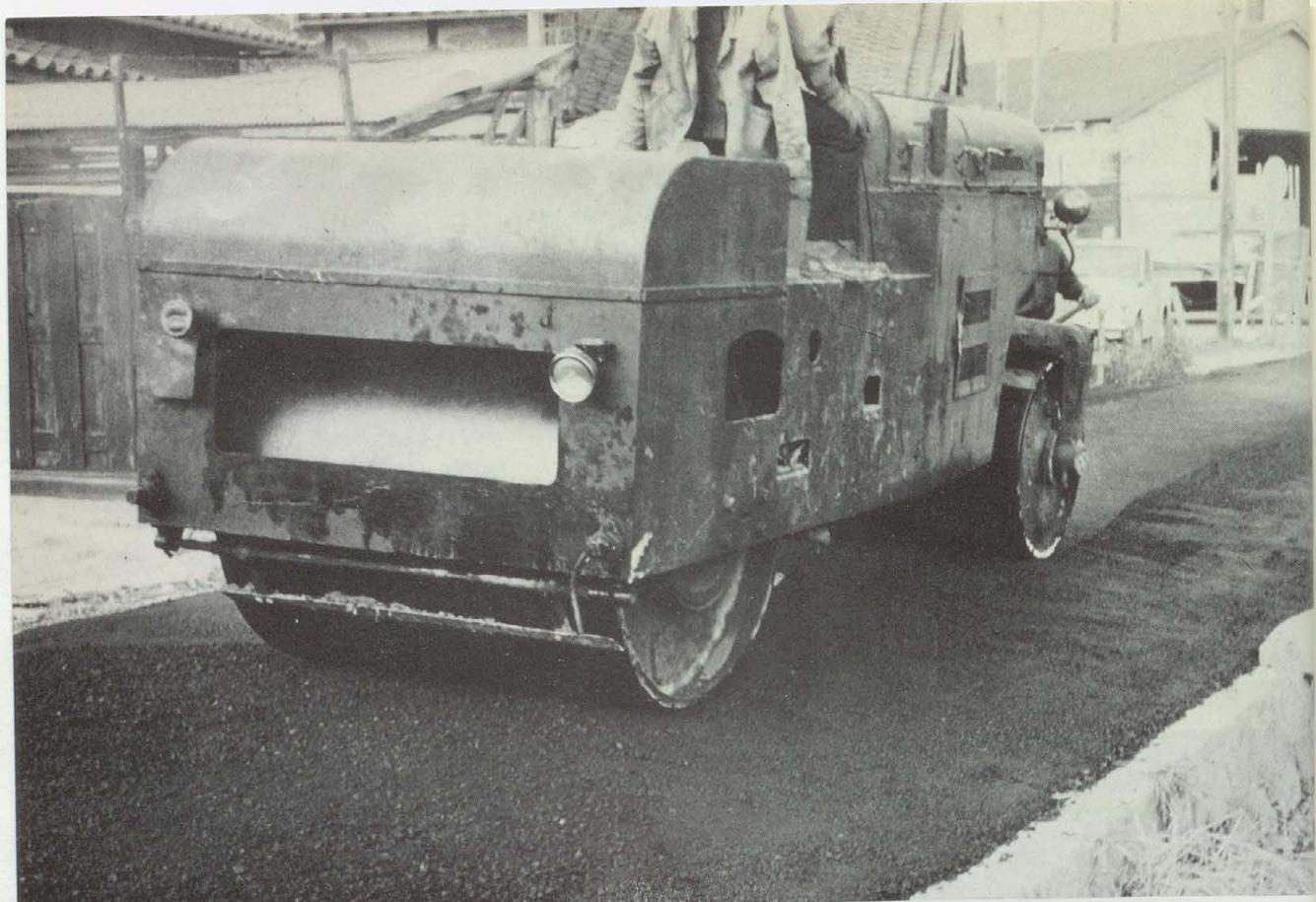
開発と観光

八尾市には大きな夢があります。高安山を中心とした総合開発計画がそれです。標高488㍍の高安山には登山観光道路が着工され、信貴山ケーブルが開発地域を縦断しています。ドライブウェー、遊園地、高安城復元、植物園、空中ケーブルなど、レクリエーション・センターの構想は年を負うごとに現実味を帯びてきました。一方では、この山麓を開発し

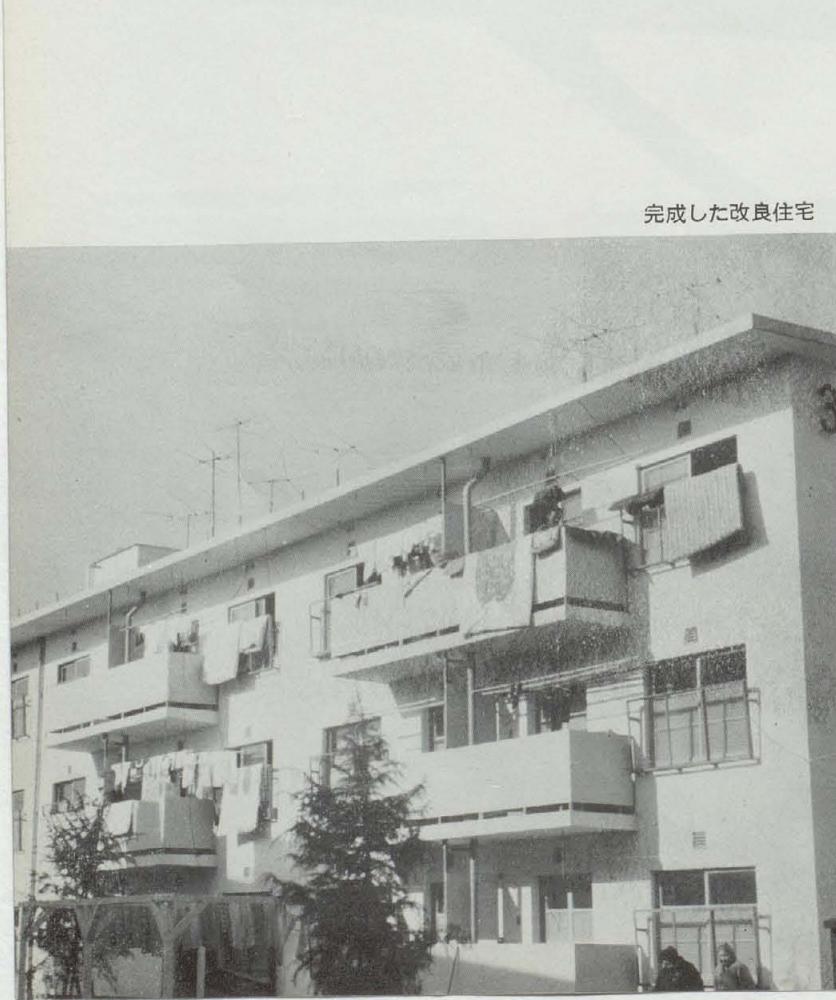
て高級住宅街を建設しようという動きも活発になっています。八尾市が六甲、有馬に負けない"いこいの場"になる日も遠くないでしょう。そのほか、桃山時代から続いているといわれる毎月11日と27日のお速夜市、軽飛行機、ヘリコプターなどが乱舞する民間航空基地八尾飛行場など観光都市としての大大阪府における八尾市の重要性はますます高まる一方です。

八尾飛行場





舗装工事をするロードローラー



完成した改良住宅

終末処理事業の重要性は、このところとくに強く呼ばれるようになつてきましたが、当市でも昭和35年から下水道事業に着手、先ず市街地 222ha の区画に下水道を敷設することになりました。これだけでも 8 億 6 千万円の工費を要し、なかなかの大事業です。

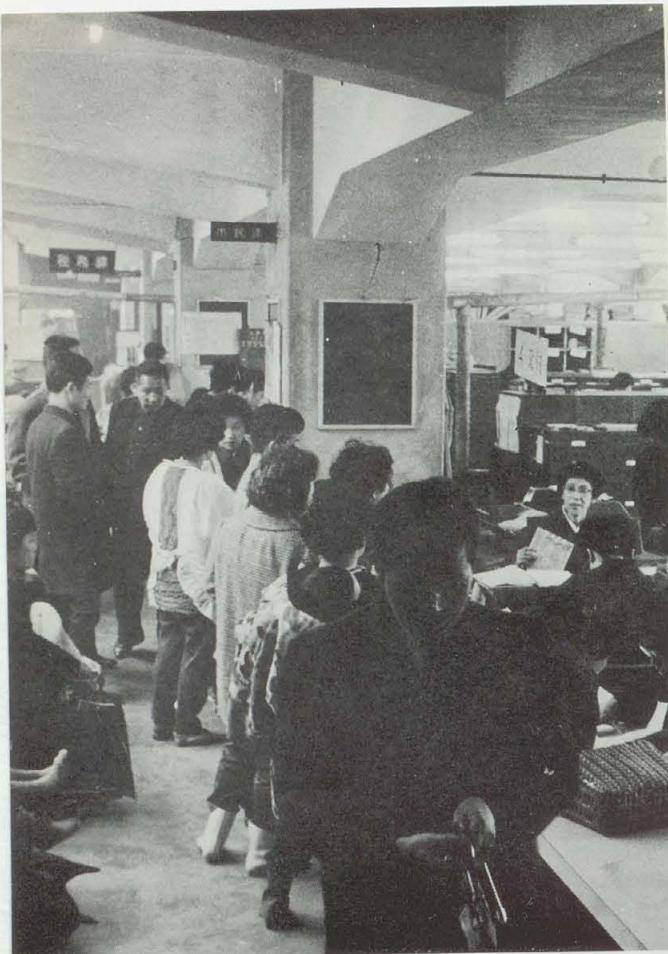
このほか、道路事業

建設事業
すゝむ

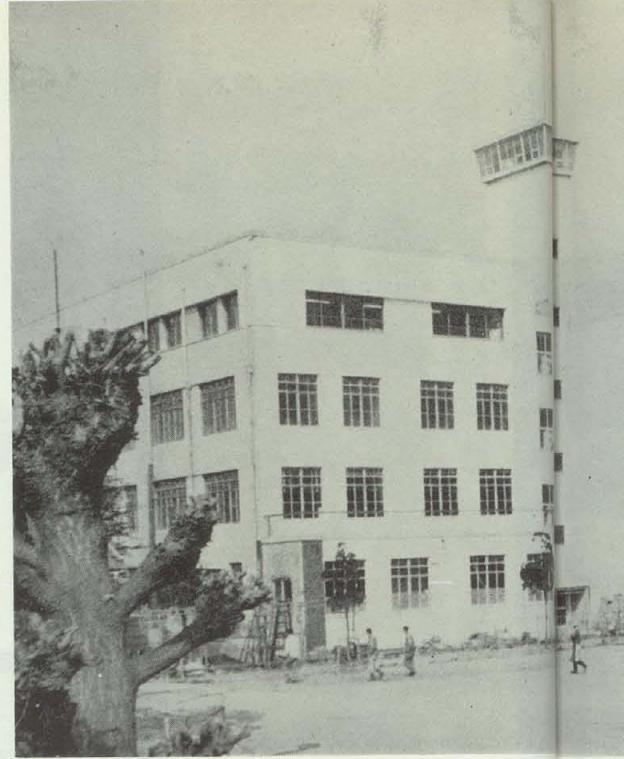
も、今後の産業の発展に見合う交通網の整備を計ってゆかなくてはなりません。昨年、桂町に鉄筋3階建の改良住宅が完成しましたが、地区改善事業として他市にさきがけて行ってきたもので、来年度も引きつゞき48戸の建設が予定され、市の建設事業は多忙をきわめています。

下水道敷設工事





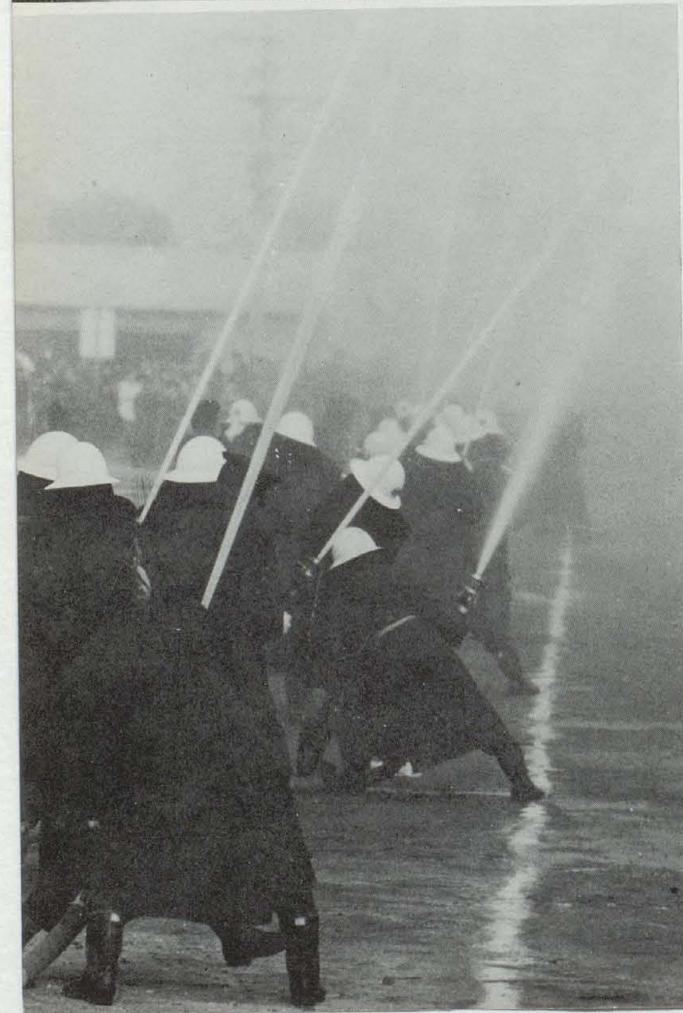
市
民
課
窓
口



市役所の仕事



市役所の仕事は間口が広く、よくいわれるよう出生から墓場まで、住民の日常生活に結びついたいろいろな事務を行なっています。教育、福祉、税務、戸籍、健康保険、水道、防火、建設、産業衛生、相談など、数限りないほど



消
防
出
初
式

福祉会館





市庁舎全 景

仕事

です。このような事務をできるだけ能率的に、最少の経費で最大の効果をあげるのが、また市の使命の一つであり、数年前から事務の統一管理、機械化などを進めていきます。

市民相談室



水
源
地



三
才
児
検
診



15年のあゆみ



市制発足

近隣の八尾、竜華、久宝寺、大正、西郡の町村が合併して昭和23年4月八尾市が発足した。（写真は初の市議会）



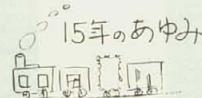
八尾警察署完成

市制発足と同時に市の自治体警察署が創設され、翌年4月庁舎が建設された。



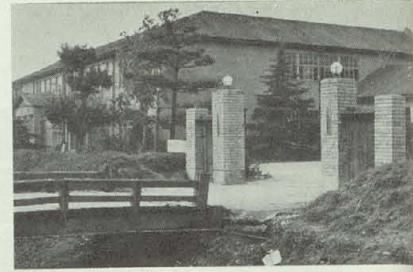
市民病院開院

昭和25年2月、日本医療団八尾病院を母体に市立八尾市民病院が開院。29年5月八尾市立病院と改称。



高松宮殿下來市

昭和25年5月、八尾市を視察のため高松宮殿下が来市、市内の各施設をみてまわられた。



高松宮殿下
昭和35年
問され、
察された



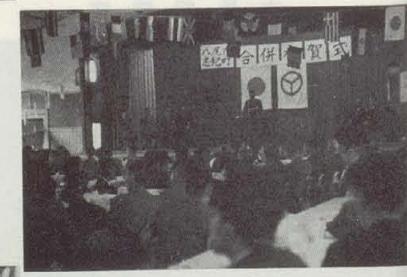
市庁舎落成

昭和26年3月、鉄筋コンクリート三階延長494坪、工費約2千4百万円で市の庁舎が落成。



信貴山ケーブル復旧

昭和32年3月、戦時中に解体された信貴山ケーブルが復興され、信貴山参詣の便宜が復活。



志紀町合併

昭和32年4月、南河内郡志紀町を編入合併、市域41.05平方km、人口108,409となる。



第2室戸
第2室戸
甚大な災
請した。